

安全だより vol.3

令和2年1月
徳島県林業改良普及協会発行



簡易リスクアセスメントのすすめ ～

作業時の労働災害防止に効果を上げている「リスクアセスメント」の考え方と、「簡易リスクアセスメント」の方法についてご紹介します。

活動組織内でこの情報を共有し、リスクの少ない安全な活動が実施できるように、「リスクアセスメント」の取り組みを始めてみましょう。

●リスクアセスメントとは何か

リスクアセスメントとは、作業時に災害や事故が起こる可能性と発生した場合の被害（ケガ等）の大きさが、どの作業にいつ潜んでいるかを調査し、適切にリスク低減対策を実施することです。

活動組織のメンバーで話し合っ、自分たちの活動において発生し得る具体的な災害事例を調査し、簡易リスクアセスメント記録書（添付資料参照）を作成、リスクとその低減対策を共有し、安全に留意した作業の実施を心がけましょう。

【リスクアセスメントの流れ】

① 危険要因の洗い出し

- 具体的な災害事例や、実作業で発生したヒヤリハット事例を洗い出し、作業時のどのような場面に危険要因が潜んでいるか洗い出しましょう。

② リスクの見積もりと評価

- 洗い出された危険要因に対し、災害の可能性と重大性（ケガの程度）を想定し、リスクの見積もりと評価を行いましょ。

③ リスク低減対策の検討

- 次の順序でリスク低減対策を検討しましょ。
 - a) 危険を伴う作業をやめたり、見直すことでリスクを小さくする。
 - b) 機械や設備等の活用でリスクを小さくする。
 - c) ヘルメット・防護ズボン等安全保護具の使用によりリスクを小さくする。
 - d) 教育訓練や作業管理等の対策によりリスクを小さくする。

④ 作業方法の改善

- 作成した簡易リスクアセスメント記録書を参照し、リスク低減対策を実施します。対策とその結果（効果や問題点）について話し合い、その内容をメンバー全体で共有しましょ。

里山林整備や竹林整備の中で近年発生した災害事例について紹介します。各活動組織内で、危険要因を洗い出す際の参考にしてください。

ケース1) 傾斜のある人工林で下刈り作業中の事故

概要：スギの造林地において刈払機で下刈り作業中に、急勾配の斜面を約6m転落し、刈払機で足を切創した。

原因：急勾配の斜面での下刈り作業に手鎌ではなく、刈払機を使用したこと。肩掛け式Uハンドルの刈払機を使用していたが、腰バンドをしていなかったこと。スロットルレバーを固定していたこと。

対策：立って作業することが困難な傾斜地は除地として作業対象区域から除外する。どうしても作業を行う場合には、先に足場を作るなどの転落防止措置を講じた上で作業を実施するか、下刈り用手鎌を用いた作業に切り換えることを検討する。肩掛け式Uハンドルの刈払機を使用する場合には、転倒しても刈刃が身体に接触しない腰バンド付きのものを使用する。衝撃でエンジンが止まるものや、ハンドルを手から離れたときスロットルレバーが元に戻り、回転が止まる構造（トリガー式スロットルレバー）のものを使用する。



ケース2) 竹を伐採中、隣接木（腐れ木）に激突された事故

概要：竹林内でチェーンソーを使用して竹の伐採作業に従事していたところ、付近の根元が腐った立木が共に倒れ、木の下敷きになった。

原因：竹林内にある立木の中に腐れ木があったが、それに気づかず作業を行ったこと。竹の伐採時に上方、周囲の確認を怠り、危険な隣接木の有無を確認しなかったこと。

対策：伐採作業前に竹林の事前調査を行い、腐れ木等の危険な立木がないか確認する。危険木がある場合は、作業時に周辺を立ち入り禁止とするか、安全に留意した上で危険木をあらかじめ伐倒する。伐倒時には上方、周囲の確認を行い、つるがらみ、枝がらみ等の有無を確認すること。



ケース3) 林内のチェーンソーによる倒木処理作業中の事故

概要：雑木林においてカシの倒木を処理するため、チェーンソーで枝払いを実施したところ、キックバックが発生し、左手親指を切創した。

原因：枝払いの際に死角にあった枝等がガイドバーの先端に触れキックバックが発生したこと。

対策：切創防止用保護衣は必ず着用する。

キックバックを起こさない使い方（下記参照）を安全講習等で作業員全員に共有する。

キックバックを防ぐ使用方法

- チェーンソーの刃をきちんと研ぎ、切れ味が良い状態で使う。
- 刃先は使わず、刃の根本～中央で切り、切るときに材料に強く押し付けないようにする。
- 死角となる部分に枝等がないことをよく確認し、作業を行う。
- 左手でフロントハンドル、右手でリアハンドルを持って作業する。



今年度は、台風等の災害により風倒木被害が各地で発生しています。

森林で作業を行う際にも、例年に比べてチェーンソーを使用する機会が増えると予想されますので、チェーンソーの取り扱いについて再度安全確認をお願いします。

簡易リスクアセスメント記録書（林業）

林災防様式

年月日 (天候)	年 月 日 (天候)	作業現場	[記録者]
作業内容		メンバー	

作業種	各欄上段の「危険の洗い出し」については以下による。			可能 性	重大 性	評価
	～するとき	～したので	～（事故の型）になる			
No 1	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
No 2	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
No 3	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
No 4	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
No 5	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
No 6	危険 の 洗出					
	どうする低減対策 					
抜本的対策	抜本的低減対策 					
	上欄でリスクレベル 2以下 に低減しない作業については抜本対策を検討すること。					

[早見表]

災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○

災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重 大	△
軽 微	○

リスクレベルの対応

リスクの見積	リスク(評価)	リスクへの対応
×	5	即座に他の方法へ回避(最優先実施)
×△ △×	4	抜本的対策を実施(優先実施)
○× ×○ △△	3	何らかの対策を実施
○△ △○	2	特に対策の必要なし(残留あり)
○○	1	対策の必要なし(残留あり)

簡易リスクアセスメント記録書（林業）

林災防様式

年月日 (天候)	平成25年 7月20日 (天候 晴れ)	作業現場	[記録者]
作業内容	刈払機による下刈作業	メンバー	

作業種	各欄上段の「危険の洗い出し」については以下による。			可能性	重大性	評価
	～するとき	～して	～（事故の型）になる			
No 1	危険の洗い出し 刈払機で下刈り作業するとき	急斜面で足を滑らせ	斜面から転げ落ちるとき、回転中の刈刃が身体に接触する。	△	×	4
	どうする低減対策	① スパイク付き地下足袋をはくこと ② トリガー式スロットルレバーの刈払機を用いる		△	△	3
No 2	危険の洗い出し 刈払機で下刈り作業をしているとき	刈刃が根株に当たりキックバックを起こし	作業員自身の足に当たる。	×	×	5
	どうする低減対策	肩掛けバンド、腰バンドを装備の上、刈払機を装着する。		△	○	2
No 3	危険の洗い出し					
	どうする低減対策					
No 4	危険の洗い出し					
	どうする低減対策					
No 5	危険の洗い出し					
	どうする低減対策					
No 6	危険の洗い出し					
	どうする低減対策					
抜本的対策	No 1について 上欄でリスクレベル2以下に低減しない作業については抜本対策を検討すること。	当該作業場所の刈払作業は、全て刈払機を用いることになっていたため、社長に相談の上、急傾斜地については、手鎌を用いて作業を行うように変更を行う。		△	○	2

[備考]

